
天候魔導士

sky

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

天候魔導士

【Nコード】

N5469Y

【作者名】

sky

【あらすじ】

いろんなギルドを渡り歩いて過ごしてきた主人公・アキ。そろそろ良いギルドに落ち着こうと思っていたとき、あの有名ギルドのメンバーに出会って・・・

FAIRY TAIL 二次創作！

はじめに

こんにちは。はじめまして。

s k yと申します。

今回が初めての投稿なので、言葉がおかしかったり、

間違えたりするかと思いますが、最後まで読んで欲しいと思います。

今は中学生なので、不定期更新になります。

これは、F A I R Y T A I L の二次創作となります。

原作のストーリー通り進んでいきます。

始まりは、ナツたちがシロツメから帰ってくる道中です。

主人公（アキ）目線で物語を書いていくので、ナツたちと別行動をしていたら、

ナツたちは出てきません。

文章を読んでいて、良いところや直した法がいいところが有りましたら、

遠慮なくコメントお願いします。

もともとは作者の妄想からできたものです。

行き当たりばつたりの物語になりますが、どうかよろしく願います。

長くなりましたが、（駄文になるであろう）この小説を見ようとしていただきありがとうございます。

がんばってあげていくのでゆっくり読んでいってください。

主人公設定（更新あり）（前書き）

本編が進んでいくたびちよくちよく更新していきます。

主人公設定（更新あり）

名前

アキ・ディオサス

魔法

天候魔法・翼^{エーラ}

その他所持系魔法^{ホルダー}

好きなもの

美味しい水

嫌いなもの

悪天候

性別

女

容姿

茶髪のショート

顔は整っている

黒目

つり気味の目

身長160?くらい

服装

まあ、いわゆる動きやすい格好

背中にリュックサック（所持系魔法が詰まっている）

その他

- ・天候魔法には広範囲攻撃が多いため、

- よく味方も巻き添えにする

- ・自分で非公式に所持系魔法^{ホルダー}を作ったりする

- ・→何を作ったのか覚え切れていない

- ・男勝り

- ・男口調

- ・（容姿や、男っぽい性格から）よく男と勘違いされる
- ・雲の上に乗ることができ、そこでもごろごろしていることが多い。
（なので、見つけてくれる人はハッピーくらいしか居ない）
- ・年齢不詳

第1話

「ふわぁ〜…よく寝たぁ〜。」

今日の天気は曇り。しかし、今俺の目の前には、雲ひとつ無い真っ青な空が広がっている。

それもそうだ。俺は今雲の上にいるのだから。

俺の魔法は『ウェザーマジック天候魔法』。これは失われたロストマジック魔法だ。

この魔法には二次能力が有り、その能力は雲に乗れるということだ。

ギルドに加入していない俺は、暖かい日差しの下で、日向ぼっこをしていた。

「はぁ〜…。暇だなぁ…。」

今まで1つのギルドに5ヶ月以上いたことは無い。

中小規模ギルドでは（ロストマジック使いだからって）避けられるし、

大規模には縁がなかったし…。

「金ねえしなあ…。やっぱ、ギルド入んなきゃだめだな。

次を最後にしよう！良いギルドで落ち着くか。」

「てゆうか、ここはどこだ…?」

俺は背中のバックの中身を一回出して、最近作った魔法を探した。自分の現在地がわかる地図を小型し、リングマジック指輪魔法にした魔法だ。

「ん〜と、ここは”シロツメ”の南の森か。んじゃ、降りますかっ。

「

そういつと、俺は雲から降りた。

第1話（後書き）

展開が速くてすみません。
文にするの苦手なもので・・・

第2話

雲から降りたあと、あっけなく道に迷った。

「ヤバイな…。誰かいないか…？」

（てゆうか、こんな森に人なんているのか…？）
そう思いながらも耳を澄ましたとき、

？「……………」

？「……………」

「！？ 誰かいるのか！？」

もう一度耳を澄ました。

？「……………」

？「……………」

「…北か？」

昔から耳がよく、静かなところでは結構な距離が聞こえるため、
今回も距離がわかった。

警戒されてはいけないため、静かに近づいた。

女「ねえナツ、少し休もうよ」

猫「あゝ！ルーシイまた言ってるよ！」

男「さつきも休んだじゃねーか。なあハッピー」
いたいた。

えつと…男と女と…しゃべる猫？

しゃべる猫ってあいつ以外にいたのか…

まあ、人がいたのはラッキーだ。

早速話しかけて…

！？ あの女の手の甲の紋章…

フェアリーテイル
妖精の尻尾！？

マジかよ！超有名どこじゃねーか！
こりゃマジでラッキーだ。

俺「あの一、すみません。」

女「へ？」

俺「何かお困りで？」

女「だ、誰？」

（やつべー！これすつげー怪しいじゃん！）

俺「あ、いえ、ちよつと話が聞こえたもので…

何も怪しいものではありません…！」

（てゆうか十分怪しいだろ俺）

女「んじゃ、マグノリアギルドまで送っててくれる？」

俺「へ？あつ、はい！」

第3話

いよっしゃあ!!

すげーなこの展開!!!

まさかすぐ出会うとは…

女「あのー、頼んどいて何なんですけど、大丈夫？」

俺「はい。一応 空の運び屋やってたんで。」

これはホントの話だ。

ギルドに入っていないときはそうやって一稼ぎしていた。

俺「んでは、やりますね。

ウエザーマジック クラウド！」

まあ、名前の通り、雲を出す魔法だ。

モコモコモコ…

女「ひゃっ!?!く、雲？」

俺「はい!人も乗れる雲です。」

男「の、乗り物かよ…」

猫「ナツ乗り物弱いもんね」

俺「大丈夫です。今まで酔った人いませんから」

男「いやあ…」

俺「さあ乗って乗って!」

そう言うのと、俺は無理やり3人を乗せた。

しばらく一緒に過ごしているうちにタメで話すようになった。

女「わあー!すごーい!」

俺「あんまり端に行くんじゃねーぞー。落下するからなー」

男「これはすげえなー。ハッピーでもこんな高さまで来れないから

な」

猫「あい」

まあ何とか普通にギルドに向かつてるな。
ラッキーラッキー。

俺「あつ、自己紹介忘れてた。

俺の名前はアキ。よろしく。」

女「うん。私、ルーシィ。」

男「俺はナツ。こいつはハッピー。」

猫「あい！」

俺「よろしく。」

ルーシィ（以下ル）

「あつ！お礼どうしよう…お金ないよ」

俺「金はいいさ。その代わり、FAIRY TAILに入れて欲しいんだ。」

ナツ（以下ナ）

「別にいいんじゃないの？」

俺「おう。サンキュー。」

つてマジかよ！！

こんなに簡単に入れんの？

だったらもつと速く行つてりゃよかった…

ま、なんかすげーラッキーだな。。

俺「もうすぐマグノリアに着くぞ」

ル「ありがと、アキ」

ナ「サンキューな、アキト」

俺「？アキト？俺のことか？」

ナ「当たり前だろ」

俺「俺の名前アキなんだけど…」

ナ「別にいいじゃねーか。そっちのほう呼びやすいし」

俺（おいおい…）

第4話

マグノリアについた頃には、もう真っ暗になっていた。

俺「うわ、こんなに時間かかるとはな…」

ル「それじゃ、ギルドには明日行こう。もう暗いしさ」

ナ「ああ、そうだな。あ、アキト今晚どうする？」

俺「あ！すっかり忘れた。どうすっかな…」

もつと速く着くと思っていたので、泊まる場所なんか考えてもいなかった。

ナ「だと思った。だったらルーシィン家泊まればいいんじゃない？」

ル「ちよつと！勝手に決めないでよ！」

俺「そうだな。ルーシィ、今晚よろしくな」

ルーシィのちよつと待つてよ、という声を聞きながら、俺はナツから貰った地図を片手にルーシィの家に向かった。

さして時間もかからずに到着した。

俺「ここがルーシィの家か。いいとこだなってうわっ!？」

後ろから急にルーシィが現れたため、俺はかなりビビった。

俺「ちよつ！急に出てくんなよ！ビックリしただろうが！」

ル「よかった。勝手に家ん中入っていなくて。」

俺「ん？どうゆうこと？」

ル「あ、いや、ナツとハッピーが家の中に勝手に入ってたことがあったさ…」

俺「へ。んなことがあったんだ」

ル「うん。ま、とりあえず家の中入ろっ！」

俺「お、おう」

ル「ただいま！」

俺「邪魔します…」

ナ&ハッピー（以下ハ）

「おかえりー。遅かったな」

ル「って、何で居るのー!?」

俺「あ、ナツとハッピー。どうやって入った？」

ナ「普通に窓から」

ル「普通玄関でしょ！ていうか普通は勝手に入らないし！」

俺「ははは…」

このやり取りに俺は苦笑しかできなかった。

第4話（後書き）

すっかり会話文が多くなってしまいました…
遅くなってすみません。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5469y/>

天候魔導士

2011年12月3日22時53分発行